

えりもしゃくなげ



発行者 教育長 川上松美 (代)01466-2-2525
<http://www.town.erimo.lg.jp/section/kyouiku/sg6h94000000pqh.html>

えりも高校生の活躍に感激・感謝

先月号でもお伝えしました、7月30日と31日に開催された小学生スキルアップスクールには、12名のえりも高校生がボランティアとして参画してくれました。

1日目のみ参加した児童と、先生役の高校生



2日間、参加した高校生のみなさん



- この事業は13年目を迎えますが、当初は、道教委事業の一環として大学生数名を依頼して派遣され、その他にえりも高校生に協力していただきました。
- その後、道教委の大学生派遣制度が廃止され、5年前の令和3年度からは、えり高生の皆さんに先生役として支援していただいています。
- 回数を重ねるごとに高校生の皆さんの応援が増え、今では10名以上が希望してくれています。

参加した高校生の感想

(敬称略)

「教わった側から教える側に」

えりも高校3年 北村 乃愛

私は、三年間、高校生ボランティアとしてスキルアップスクールに参加しました。

小学生の時、教えてもらう側として参加し、高校生の方に分かり易く教えてもらったことがうれしく、自分も小学生に同じことをしたいと思い参加しました。

低学年に指示を出すのが大変でしたが、目線を合わせたり、復唱することを意識していました。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

「ボランティアとして参加して」

えりも高校3年 小島 咲希

私は三回のボランティアをとおして相手に合わせて分かり易く伝えることの大切さを学びました。

小学生に勉強を教える中で、分かり易く説明する方法を考えることが不安でした。

ですが、小学生は呑み込みが早くすぐに理解してくれました。

また、ボッチャでは、違う学年でもチームの人と話し合っていて、私も楽しく会話をすることができました。

「教えることの難しさ」

えりも高校3年 大森 樹

私がスキルアップスクールを通して学んだことは、人に教えることの難しさです。

私は人に教えることに少し苦手意識がありました。しかし、子どもたちに教えるうちに、理解してもらえたときの達成感を感じるようになりました。

私の苦手意識を二日間で無くしてくれた子どもたちに、とても感謝の気持ちでいっぱいです。

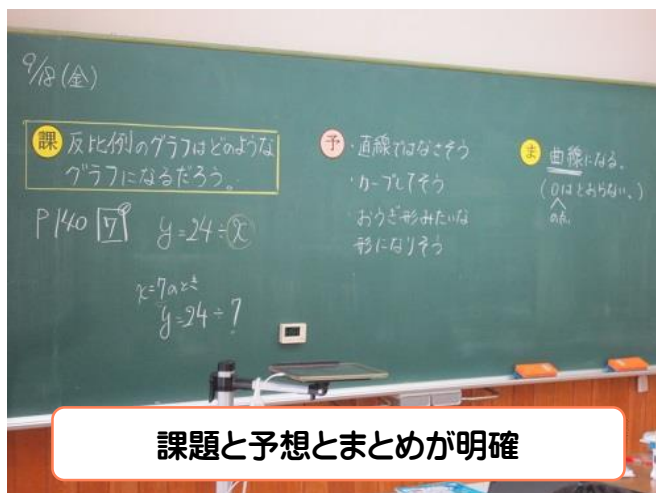
この経験を生かして、周りを積極的に助けていきたいです。

えりも小 誰一人落ちこぼさない教育を願い実践

— 考えを深めるための方策 —



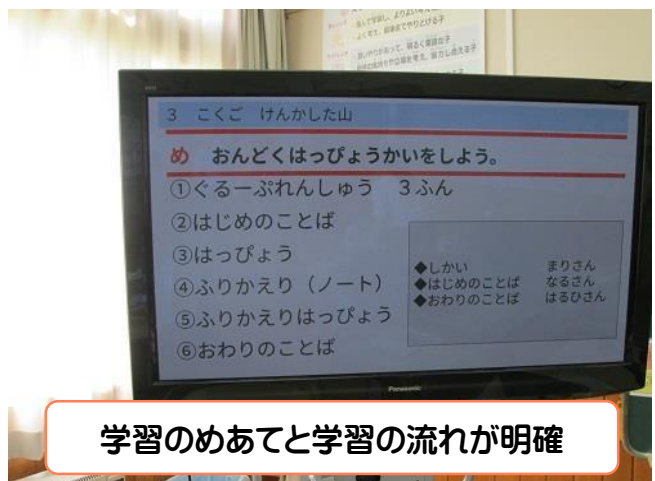
明確な指示で考えを深めています



課題と予想とまとめが明確



正しい本の持ち方は重要



学習のめあてと学習の流れが明確

○毎時間の授業では、「めあて」と「学習の流れ」が明確に示されています。

○先生と一人一人が「何をどのように学ぶか」をしっかりと見取ります。

○授業では、課題・予想・まとめが、簡潔に板書され、大切なことが見える化して明確に分かります。児童はノートに書いて、振り返りに役立てています。

○特に、課題とまとめは1時間で何を解決するのか、その結果をしっかりと確認しています。



○低学年で身に付けさせたいしつけの一つに「正しい姿勢で読んだり聞いたりすること」があります。

○なぜ、正しい本の持ち方が奨励されるのでしょうか。

○姿勢を正しくすることで心が落ち着き、本を読む上でも頭脳が一層働き、思考を深めることに繋がっています。

○学校と家庭が一体となって、根気よく話し、指導することが大切です。